

雪をどかしきれない!

除雪機の燃料代がたいん!

雪の捨て場がない!

助けを求めているすべての人を助けてこそ 本当の政治です



前列右から二人目が私。新潟県庁にて14日。

日本共産党新潟県委員会（樋渡士自夫委員長）は14日、泉田裕彦新潟県知事に対して豪雪対策の強化を求める要請書を提出し、防災企画課の幹部と意見交換しました。これには上越市議団から私と平良木議員が参加しました。

要請書は、日本共産党議員などがこれまで県内各地で行ってきた現地調査や住民のみなさんからの聞き取りにもとづいてまとめたもので、災害救助法適用問題や道路および公共施設等の除排雪、雪崩災害の防止対策、ハウスなどの農業施設の雪害防止策、除雪機の軽油の免税措置など20項目に及ぶ要望、願いが盛り込まれています。要請書の全文は近く、私のホームページに掲載しますのでご覧下さい。

このうち、災害救助法適用問題では、ダンプやバックホウなど除排雪資材（貸し出し）に関して、「個々の世帯・家屋への支援でなく、豪雪の実態から集落全体への面的な支援がもたらわれています。集落等の判断により効率的で効果的な除排雪資材の活用ができるよう、その旨を市町村・集落まで周知徹底できるような措置をとっていただきたい」「不測の緊急事態に即応するためにも、除排雪資材の活用は高齢者世帯等に限らず、効果的な活用をはかっていたいただきたい」と求めています。

また、災害救助法適用下に



右から3人目が井上参院議員。一番右は私。板倉区機械で町会会長さんなどから話を聞いているところ。

あつて、どこを救助するのかという問題に関しては、「災害救助法の『自らの資力及び労力によつては除雪を行うことができなない世帯』とは、豪雪の状況下で現に『除雪を行うことができなない世帯』であり、豪雪災害を未然に防止する立場から、対象世帯を抜本的に広げる措置を」とるよう求めました。

は金がありますか、近くに子どもさんがいますかと聞くようなやり方ではだめだ。助けを求めている人のすべてを救うべきだ」と改善を求めました。

担当課の人たちは「声をきちんと庁内に伝え、対応したい」と答えました。

井上参院議員が板倉区などの山間部を視察

日本共産党の井上さとし参院議員が10日、板倉区、大島区の被災地を視察。日本共産党市議団が案内をしました。

大島区のばんや亭では、お母さんたちから、「もっと平に支援を」「このままでは住んでいられない」「除雪機の燃料代がたいへんだ」等の声を寄せていただきました。



大島区菖蒲で屋根雪の状況を見る井上参院議員と私。

橋爪のりかずの
市政レポート

NO 1541
2012.2.19

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 025-548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

坂になった雪の一本道を五〇メートルほど歩き、大きな栗の木の枝の下をくぐりぬけると、そこにヒサさんの家がありました。家の一階は雪ですっぽりとうまっています。すぐそばの作業所もまた雪に覆われていました。ここは板倉区寺野地区です。

案内役をしてくださったSさんの顔が見えたのでしようね、初対面の私が作業所の見えるところまで行くと、屋根に上っていたヒサさんが笑顔で迎えてくださいました。私がヒサさんのところを訪ねた理由の一つは、市内に住む息子さんとは別に山間部でひとり暮らしをされているなかで、豪雪とどうたたかっているかをお知らせしたいと思っただけですが、この笑顔でいい話を聞けるなど直感しました。

作業所の屋根にはヒサさんだけでなく、息子さんの姿もありました。二人ともスノーダンプを手に雪下ろしの最中だったのです。雪下ろしと言えば、高いところから低いところへ雪を落とすというイメージをお持ちの人が多いとは思いますが、スノーダンプで屋根雪を掘って低い場所まで運んでいるといった感じでした。

初めて見たヒサさんの仕事ぶりには力強さがありました。緑色のスノーダンプで雪をぐさぐさとさす。腕にぐっと力を入れて雪をダンプの中に入れる。入れた雪を運ぶ。若いときから相当、力仕事をされてきたのでしょうか。七十代後半のお母さんということでしたが、とても若々しく感じた仕事ぶりでした。

私たちがそばまで行くと、ヒサさんは住宅の方へさっと移動しました。住宅の玄関前は雪が積もり、三メートルほどの高さになっています。「こりや、たいへんだ」そう思いながら、視線を前庭の方へと向けると、すぐそばに小さな穴がありました。のぞき込むと下の方に水たまりが見えます。なんと、ここは小さな池だったのです。

「最初はそこへ雪を少しづつ運んで溶かしていたんだわね。でも、どんどん雪が降るすけ、運びきなくなっちゃって……」

ヒサさんは静かに語ってくれましたが、私の脳裏には池の中に毎日せつせと雪出しをしているヒサさんの姿が思い浮かびました。

池へ運び出すことができなくなっているから、玄関前は雪が積もる一方です。何日もたないうちに、玄関から家の中に入ったり出たりすることができなくなりました。一階はどこからも出入りできません。それで、ヒサさんは二階から出入りすることにしたというのです。

私が尾神岳のふもとに住んでいた頃、それも五十年以上も前になりますが、二階から出入りしたことがあります。ただ、その時でも玄関のところでは雪の階段を作り、出入りできたように記憶しています。それだけに、いまの時代に二階から出入りせざるをえないケースがあることを知ってびっくりしました。

ヒサさんの家の二階を見たとき、一本のロープが目に入りました。ロープは二階の角から屋根づたいに下へと伸びていました。私の目の動きを感じたのでしょうか、案内役のSさんがニコッと笑って「おれがつけたんだ」と言いました。屋根は滑りやすいし、危険です。近くに住むSさんは、ヒサさんが楽に上り下りできるようにとロープの設置を考えたのでした。

私もロープにつかまり、屋根に上ってみました。ロープをぴんと張ったとき、「あっ、これだ」と思いました。とてもしつかりしていて、安心感があるのです。Sさんとは三十数年のつきあいですが、やさしい気配りに私までうれしくなりました。

村山市長にも豪雪対策で緊急要請

日本共産党上越地区委員会（伊藤誠委員長）と上越市議団は13日、村山市長宛に豪雪対策についての緊急要請書を提出しました。これには馬場危機管理監が応対しました。

要請書では、「災害救助法が適用され、上越市全域は被災地です。市民は被災者です。この立場で住民を災害から救助する対策をすすめていただきたい」として、①救助対象世帯を抜本的に広げる措置をとること、②除排雪資材（ダンプやバックホウなど）の投入については、個々の世帯・家屋への支援でなく、豪雪の実態から集落全体への面的な支援がもとめられているので、集落等の判断により効率的で効果的な除排雪資材の活用ができるよう、周知徹底をはかっていたいただきたいこと、③上越市に住民票があるかないかでなく、現に住んでいる世帯も救助・支援対象とするこ



と、④耐雪型農業用ハウスまで豪雪による被害がでているので、農業施設の雪害防止策をすすめるとともに、復旧への支援を強めることなどを求めました。

県立柿崎病院でも放射能測定器を購入し、測定値をホームページで公開へ

県立柿崎病院後援会の理事会が14日、同病院で開催され、地域に根ざした病院経営のこれまでの取り組みと今後の課題について藤森病院長が約50分にわたって報告しました。

このなかで藤森院長は、「福島原発事故が起き、柏崎刈羽原発から25キロしかない当病院は無関心ではいられない。病院としてもガイガーカウンター（放射能測定器）を購入し、計測値をホームページに掲載することにした。県からは責任を持って掲載をと言われたので責任を持ってホームページにのせていきたい」とのべました。

新潟県が柏崎に隣接するところに放射能測定器を設置しないなか、病院の決断に拍手をおくります。

